



ECOLE DE LANGUES DE TENRI

- Etablissement d'enseignement supérieur libre -

パリ天理語学センター

2022 年

第 33 回日本語教師養成講座

案内・プログラム・講義概要

天理日仏文化協会 Association Culturelle Franco-Japonaise de Tenri

8-12, rue Bertin Poirée 75001 Paris

Tél : 01 44 76 06 06 Fax : 01 44 76 06 13

mail : yosei @ tenri-paris.com http : //www.tenri-paris.com

2022年 第33回日本語教師養成講座

当センターの日本語教師養成講座は、短期間のうちに基礎知識を身につけ、実際に教えることができるようにプログラムされています。

日本語の特色や文法、基礎文型をしっかりと学ぶ基礎編と、実際の授業を目標にした実践編にわかれています。

今回で33回を迎える当講座にはこれまで630名を超える人が受講し、フランスやヨーロッパの各地で、日本語教師として活躍されています。

○ 基礎編のポイント

日本語教師とはどんなことをするのでしょうか。
日本語の文法を振り返ってみましょう。
日本語の発音、文字はどのように教えればいいのでしょうか。
フランス人学習者が間違いやすい点を考えてみましょう。
教師が学ぶ参考書には、どんなものがあるのでしょうか。
日本語初級者が学ぶ文型の指導方法を学びましょう。
日本語の語彙、助詞の働きについて考えてみましょう。

○ 実践編のポイント

実際に日本語を教える手順、方法を考えてみましょう。
授業のシナリオである教案を書きましょう。
受講者間で模擬授業をしましょう。
フランス人学習者を相手に実習しましょう。
授業の後、お互いの授業内容を検討し、振り返りましょう。

● コースと料金

2週間コース

基礎編 : 2022年4月25日～29日 計22,5時間

月～金 10h -16h (4時間30分/日)

料金: 300€ (失業者、学生料金 265€)

実践編 : 2022年5月2日～6日 計22,5時間

月～金 10h -16h (4時間30分/日)

料金: 300€ (失業者、学生料金 265€)

基礎編、実践編続けて受講する場合は、割安になります。

料金 600€ → 560€ (割引料金対象者は 495€)

- ・ 受講料には教材費が含まれています。なお会員登録料として別途 35€が必要です。
- ・ 定員は2週間コース15名です。定員になり次第締め切らせていただきます。
- ・ 各コース基礎編、実践編、修了者には修了証を発行します。
- ・ 基礎編は、遠方の方が受講いただけるようオンラインでの受講が可能です。
- ・ 実践編は、基礎編を受講された方、また教師経験者が受講できます。実践編は、対面授業のみとなっております。
- ・ 状況に応じて、授業形態(オンライン、対面)が変更になることもあります。
- ・ CPFを利用しての受講はできませんので、ご了承ください。
- ・ POLE EMPLOIに登録されている方は、援助金を申請することが可能ですので、メールにてお問い合わせください。

パリ天理語学センター 日本語教師養成講座 プログラム

2週間コース	基礎編	15コマ X 1H30 = 22,5時間
--------	-----	----------------------

	<i>10H-11H30</i>	<i>12H45-14H15</i>	<i>14H30-16H</i>
4/25 月	①日本語教師の役割	②文法 1	③文法 2
4/26 火	①文法 3	②授業の実際	③音声
4/27 水	①文字	②初級文型解説 1	③テキストと教師用参考書
4/28 木	①初級文型解説 2	②初級文型解説 3	③教具解説
4/29 金	①初級文型解説 4	②語彙	③仏人学習者指導

2週間コース	実践編	15コマ X 1H30 = 22,5時間
--------	-----	----------------------

	<i>10H-11H30</i>	<i>12H45-14H15</i>	<i>14H30-16H</i>
5/2 月	①教案の作り方 1	②教案の作り方 2	③教案の作り方 3
5/3 火	①実習準備 1	②実習準備 2	③実習準備 3
5/4 水	①実習準備 4	②実習準備 5	③実習準備 6
5/5 木	①模擬授業 1	②模擬授業 2	③模擬授業の反省
5/6 金	①授業実習	②授業実習 2	③実習の反省

日本語教師養成講座 概要

[基礎編]

(1) 日本語教師の役割

外国語としての日本語を学習するというのはいったいどんなことなのかを考え、それに対して、学習の手助けをする立場である教師はどんなことを認識していなければならないか、どんな知識を身につけておくべきかといったことを考えていきます

(2) 日本語文法 1～3

私たちが普段、ほとんど不自由を感じることなく日本語を使っているのは、日本語の文法を知っているからです。しかし、知ってはいても、あまり意識することはないでしょう。例えば、私たちが何気なくこなしている助詞の使い分けや、動詞の語形変化などは、学習者にとってやっかいな文法事項の一つです。この講義では、日本語学習の視点から、日本語の姿を客観的に見ていきます。

(3) 音声

私たちは普段、何気なく日本語を話していますが、その音声はどんな仕組みで発せられているのでしょうか。自分の発音を客観的に観察認知してみましよう。

(4) 文字

文字はどのように指導を続けていけばいいのか、その方法と文字指導の上での留意点を、実践をまじえて考えていきます。

(5) 授業の実際

授業の形態は、学習者の目的や年齢、クラスの規模や構成などによって様々であり、統一したものはありません。この講義では、主な教授法について、そのプラス面とマイナス面を考えていきます。また、代表的な教科書を取り上げ、その使い方を学びます。

(6) 初級文型解説 1～4

初級で扱う主な表現の型（文型）のうち、最も基本となるものについて、意味と使い方を掘り下げていきます。そして、学習する上でどんなことが問題となるのか、指導する際にどんなことに留意しなければならないかを考えていきます。

■名詞文 ■主語と主題 ■「こそあど」詞

日本語の初級教科書のほとんどが、「(名詞)は(名詞)です。」という文型、いわゆる名詞文から始まっています。日本語を初めて学ぶ外国人学習者の視点から、この基本文型はどのように捉えられるのか、また、日本語教育における「主題」と「主語」、「こそあど」を使った表現について解説します。

■形容詞文 ■「～たい、ほしい」希望・欲求の表現

日本語教育における形容詞の種類とは？「桜はきれいです」「富士山は高い山です」「あのレストランは安くておいしかったです」など、形容詞を使ったさまざまな文型について、また「パソコンがほしい」「コーヒーを飲みたい」など、希望・欲求の表現について解説します

■「いる、ある」存在文と所在文 ■いろいろな動詞文(動詞フォームと表現意図)

「～がいます」と「～があります」の使い分けは？また「机の上に辞書があります」と「辞書は机の上にあります」にはどのような違いがあるのでしょうか。また、いろいろな動詞文と表現意図、動詞の活用の変化の学習者への教え方について解説します。

■「～ている」 ■自動詞&他動詞 ■可能表現

「テレビを見ている」と「あの人は結婚している」の「～ている」の文法上の意味の違い、いろいろな「ている」の用法、「ドアが開く(自動詞文)」と「ドアを開ける(他動詞文)」の違いとは？また「～さんはフランス語が話せます/話すことができます」など、可能表現を教える際の留意点について解説します。

■使役 ■受身 ■授受表現(あげもらい)

「母親は子供を塾に行かせます」「部長はその社員に報告書を書かせた」などの使役表現、「弟は先生に叱られた」「電車で誰かに足を踏まれた」などの受身表現、そして「あげる、もらう、くれる、いただく、くださる」など、いろいろな動詞を使って、物や行為による恩恵の授受を表す表現について解説します。

(7) 語彙

日本語ではどうしてお湯のことを「熱い水」と言えないのでしょうか。ほかに「夜&晩」「わかる&知っている」、「一人で&自分で」など、学習者からよく違いを尋ねられる語彙についての解説。また、日本語における助詞の役割と使い方、教える際の留意点について解説します。

(8) テキストと教師用参考書解説

日本語学習には用途に応じた様々なテキストがあります。それらの内容について解説します。また、教案を書く際にわからないことが出てきたり、学習者からの質問に答えたりする際に参考になる書籍を紹介します。実際に言葉を探しながら解説します。また普段の自己研鑽のため

に読んでおいたほうがいい書籍を紹介します。

(9) 教具解説

導入や練習を効果的に進める上で、さまざまな教具の使用が有効です。ここでは、その中でも特に頻繁に用いられる絵教材などの教具の紹介とその効果的な使い方を学びます。

さらに、授業で使う様々な小道具の紹介や、身の回りにある物を使っての練習など、実際の授業で使える教具を紹介、解説します。

(10) フランス人学習者を指導する際の留意点

実際にフランス人(フランス語話者)に対して日本語の授業をする時に出てくる問題点を考え、それにどのように対処していけばいいのかを考えます。

特に文法、発音、表記などに的を絞ってフランス語話者の特徴と問題点を挙げ、その解決法を見つけていきます。

[実 践 編]

(1) 授業デモ

実際の授業を始める前に、外国語を学ぶということはどんなことなのか、体験授業と教師による日本語の授業の実際を体感します。

(2) 教案の作り方 導入と練習1-2

学習事項の導入(提示、説明)の仕方と、いろいろな練習方法を考えます。そして、それらをまとめておく「教案」の書き方を考え、実習に備えます。また、学習効果を高めるための練習も考えます。

(3) 例文作成

学習者に説明をする場合、説明をするよりも、適切な例文をあげて説明をするほうが効果的な場合があります。ここでは 文型ごとに学習者に提示する例文を実際に作って、どのような例文が適切か考えていきます。

(4) 実習準備 1～5

最終日の授業実習の準備をします。それぞれ選んだ表現文型の教案を作成します。絵を描いたり、例文を作成して、教案を作り上げていきます。

(5) 模擬授業と実習

それぞれ用意した教案で実際に授業をしてみます。前半は受講生同士でリハーサルを行い、後半は当校で実際に日本語を学ぶ学生を相手に授業をします。終了後はそれぞれの授業の反省を元に、教案の練り直しなどを行います。